

## 水使用量の削減

### 目標と成果

水資源の重要性が世界的に増していることを踏まえ、三菱電機グループでは、国内外全96拠点での水使用量・再利用量のデータを継続的に計測しており、定期的にこれらの数値に大きな変動がないかを把握して、適宜、必要な対策を実施しています。また、有効な事例があれば、環境キーパーソン連絡会などを通して他の拠点に水平展開しています。

第9次環境計画(2018~2020年度)では、水使用量の売上高原単位を「2010年度比で年率1%削減」という目標を掲げていました。これに基づき、水使用量・排水量の管理徹底や節水・再利用による水使用量の削減を進めました。

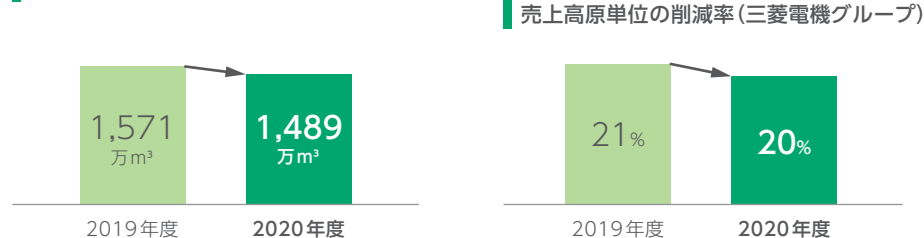
2020年度の三菱電機グループの水の使用量は1,489万m<sup>3</sup>、うち再利用量は455万m<sup>3</sup>、再利用率は31%となりました。また、水使用量の売上高原単位は3.55(m<sup>3</sup>/百万円)となり、基準年度(2010年度)に対して20%削減しました。

日本では生産工程で使用した水をリサイクルして再び生産工程で利用するほか、浄水処理した廃水をトイレの水やクーリングタワーの補給水などに活用する中水利用を進めました。また、雨水利用による地下水使用量の削減にも取り組んだ結果、水の使用量は1,317万m<sup>3</sup>、うち再利用量は441万m<sup>3</sup>(再利用率33%)となりました。海外では水の再利用による取水量の削減に注力し、廃水の中水利用を拡大しました。特に中国の各拠点での節水、再利用水の拡大による使用量の削減により、水の使用量は172万m<sup>3</sup>、うち再利用量は14万m<sup>3</sup>(再利用率8%)となりました。

今後は、WRI Aqueduct<sup>※1</sup>の改定に伴い見直した高リスク拠点に対して、改善項目の検討・改善活動を進めていきます。また、その他の拠点においても、地域の水環境に配慮し、節水や取水量削減に取り組み、環境負荷の低減に努めます。

※1 WRI Aqueduct:世界資源研究所(WRI)が開発した水リスク評価ツール

### 水総使用量(三菱電機グループ)



→水総使用量の詳細はP.34「マテリアルバランス」を参照ください。

### 水リスクへの対応

世界的に深刻化する水不足や水質汚染、気候変動に伴う異常気象から、水リスクが高まっています。また、原材料の生産や製品の製造に影響を与えるため、企業の水リスク管理への関心も同時に高まっています。

三菱電機グループでは、水リスクの評価を、企業のリスク管理の枠組みの一部として実施しています。評価においては、ステークホルダーへの影響、生態系への影響などを考慮しています。

評価結果に基づき、拠点ごとに対策の優先順位を明確にして取り組んでいます。

また、製品開発においても水源への影響やライフサイクルの評価をしており、影響の低減に努めています。

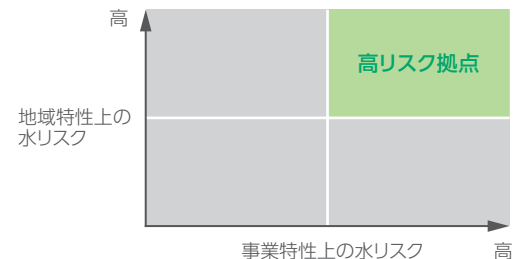
### 高リスク拠点への対応

三菱電機グループでは、WRI Aqueductなどを用いて、国内外の拠点における現在及び将来の水リスクを把握しています(水ストレス<sup>※2</sup>の有無を含む)。

このデータをもとに、2020年度は、地域特性(取水源となる海や河川の季節ごとの豊水・渇水状況)や拠点ごとの事業特性(生産活動に伴う水の使用状況)を踏まえ、特に水リスクの高い海外拠点を「高リスク拠点」としてリストアップするとともに、それらの拠点に調査シートを配布して、水使用設備での節水状況や水の再利用に関する取組状況を確認しました。2021年度以降はその調査結果をもとに改善を進めます。

また、2021年度からの「環境計画2023」においては、高リスク拠点での水使用量の削減に関する目標として、「2023年度に取水量の売上高原単位を2019年度比4%以上削減」を設定しました。今後はこの方針に基づき、高リスク拠点を中心に、取組の更なるレベルアップを進めます。

※2 水ストレス:水需給のひっ迫度合いを表す指標。人口一人当たりの最大利用可能水資源量が1,700立方メートルを下回る場合、水ストレスがあるとみなされる



### 使用ツール

WRI Aqueduct 3.0

## 取水・排水・再利用の状況

### 取水の状況

三菱電機グループの事業所では、主に冷却水、洗浄水、溶媒、材料への添加物、水性塗料の濃度調整用水、また熱媒体への使用を目的に取水しています。2020年度の取水量は1,035万m<sup>3</sup>で、前年度に比べ71万m<sup>3</sup>減少しました。

### 排水の状況

三菱電機グループでは、排水地点ごとの基準値を超えることがないよう、更に厳しい自主基準を設定し、これに準じた水質に処理した上で排水しています。水域の特性に応じて定められている排水基準がある場合は、これも基準に組み込んでいます。これらの遵守状況については、定期測定により確認しています。

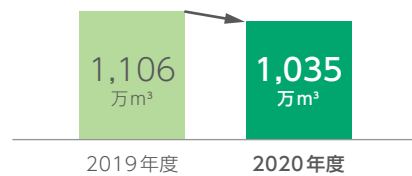
2020年度の排水量は816万m<sup>3</sup>で、前年度に比べ48万m<sup>3</sup>減少しました。

### 再利用の状況

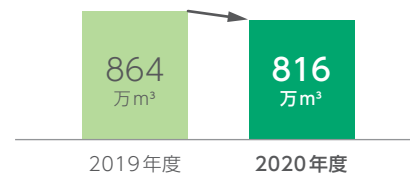
三菱電機グループの工場では、水の利用に当たり、取水した水だけではなく、一旦使用した水を浄化・再生した循環水も使用しています。

2020年度の再利用量は455万m<sup>3</sup>、再利用率は31%でした。

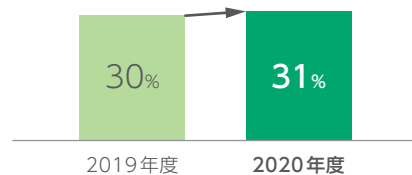
#### ■ 取水量(三菱電機グループ)



#### ■ 排水量(三菱電機グループ)



#### ■ 水の再利用率(三菱電機グループ)



→詳細はP.36「取水・排水・水の再利用量」を参照ください。

#### CDP\*の最高評価「Aリスト企業」に5年連続で選定されました

三菱電機は、CDPから水資源への対応と戦略において特に優れた活動を行っている企業として評価され、「CDPウォーター」にて2016～2020年度の5年連続で最高評価の「Aリスト企業」に選定されました。

これからも、持続可能な社会の実現に向けて取組を積極的に進めていきます。

\* CDP: 企業や都市の環境への取組を調査・評価・開示する国際NGO (非政府組織)

